

【訂正前】

1. 営業外収益（為替差益）の計上について

2026年3月期第3四半期連結累計期間に為替差益542百万円を計上しておりましたが、為替相場の変動により、当第4四半期連結会計期間に為替差益281百万円を計上いたしました。

その結果、当第4四半期連結累計期間の為替差益は824百万円となりました。

これは主に当社及び連結子会社が保有する外貨建資産を期末時点の為替レートへの評価替により発生したものであります。

3. 連結業績予想値と実績値との差異について

(1)2026年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異（2025年4月1日～2026年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 95,000	百万円 2,100	百万円 1,700	百万円 600	円 銭 70.92
実績値（B）	96,768	<u>2,753</u>	<u>2,738</u>	<u>819</u>	<u>94.1</u>
増減額（B－A）	1,768	<u>653</u>	<u>1,038</u>	<u>219</u>	－
増減率（％）	1.9	<u>31.1</u>	<u>61.1</u>	<u>36.6</u>	－
（ご参考）前期実績 （2025年3月期）	91,724	2,270	1,467	411	49.14

4. 差異の理由

売上高については、為替変動を織り込んだことで全事業ほぼ予想通りの着地となりました。

営業利益については、先ず以て事業全体として毎年全工場で執り行われる社長総点検を筆頭に世界中総ての傍楽仲間達みんなでいっしょにがんばるものづくり、百人省人千人精進と称してみんなで行く省人化で留めない品質保証厚肉化等、【お客様要求品質第一に徹する】為の不良撲滅、原価低減、経費節減等の諸施策の継続による収益改善に全身全霊連日連夜連打連撃連戦猛進して参りました。

また、外部環境の変化への迅速な対応として、米国における追加関税の回収や、中国でのレアアース規制に伴う調達・供給問題の解決に取り組み、その結果として業績予想値を653百万円上回りました。

経常利益については、営業利益の増加影響に加え、為替相場の変動により、業績予想値を1,038百万円上回りました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、自動車機器事業での中国における市場回収措置（リコール）に関する製品補償損失引当524百万円及び主にハンガリーダイヤモンド電機における固定資産の減損損失441百万円の特別損失の計上がありました。が、経常利益増加による影響により、業績予想値を219百万円上回り黒字の着地となりました。

【訂正後】

1. 営業外収益（為替差益）の計上について

2026年3月期第3四半期連結累計期間に為替差益542百万円を計上しておりましたが、為替相場の変動により、当第4四半期連結会計期間に為替差益154百万円を計上いたしました。

その結果、当第4四半期連結累計期間の為替差益は697百万円となりました。

これは主に当社及び連結子会社が保有する外貨建資産を期末時点の為替レートへの評価替により発生したものであります。

3. 連結業績予想値と実績値との差異について

(1)2026年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異（2025年4月1日～2026年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 95,000	百万円 2,100	百万円 1,700	百万円 600	円 銭 70.92
実績値（B）	96,768	<u>2,431</u>	<u>2,062</u>	<u>217</u>	<u>24.98</u>
増減額（B－A）	1,768	<u>331</u>	<u>362</u>	<u>▲382</u>	－
増減率（％）	1.9	<u>15.8</u>	<u>21.3</u>	<u>▲63.7</u>	－
（ご参考）前期実績 （2025年3月期）	91,724	2,270	1,467	411	49.14

4. 差異の理由

売上高については、為替変動を織り込んだことで全事業ほぼ予想通りの着地となりました。

営業利益については、先ず以て事業全体として毎年全工場で執り行われる社長総点検を筆頭に世界中総ての傍楽仲間達みんなでいっしょにがんばるものづくり、百人省人千人精進と称してみんなで行く省人化で留めない品質保証厚肉化等、【お客様要求品質第一に徹する】為の不良撲滅、原価低減、経費節減等の諸施策の継続による収益改善に全身全霊連日連夜連打連撃連戦猛進して参りました。

また、外部環境の変化への迅速な対応として、米国における追加関税の回収や、中国でのレアアース規制に伴う調達・供給問題の解決に取り組み、その結果として業績予想値を331百万円上回りました。

経常利益については、営業利益の増加影響により、業績予想値を362百万円上回りました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、自動車機器事業での中国における市場回収措置（リコール）に関する製品補償損失引当524百万円及び主にハンガリーダイヤモンド電機における固定資産の減損損失441百万円の特別損失の計上により、業績予想値を382百万円下回る結果となりました。

以 上